

# 緑化だより

No.134 平成29年12月号



アトリ

- 季節の花(ヤドリギ)
- 小さな世界こけ  
(コケの分類その2)
- 昆虫の話(お菊虫)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ryokka 緑学の本  
**広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園**  
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# 季節の花

## ヤドリギ

「あしひきの 山の木末(こぬれ)の寄生(ほよ)取りて

かざしつらくは千年(ちとせ)寿(ほくとぞ)

大伴家持

万葉集 18:4136

これを現代の言葉に訳すと

「山の梢で見つけた寄生(ほよ)を採って

こんなふうに髪に挿して飾るのは千年の長寿を祝うということだよ」

ヤドリギの古名は「寄生(ほよ)」といいます。

奈良時代 天平勝宝 2年(750)、大伴家持は越中守(富山県)として赴任していました。

家持は 33 歳でした。その時この土地のめずらしい習慣に出会います。

ここでは伝統的に、お正月にはヤドリギを髪にさすと長生きをするといわれ、家持はお正月にこの土地の習慣を真似て、ヤドリギを髪にさし、みんなで新年を祝福し、長寿を祈願しました。その時に詠われた歌です。

万葉の人々は、冬枯れの林に青々と鮮やかな緑色のヤドリギが残っている姿を見て、力強い生命力が宿っていると信じていました。

ヤドリギはヤドリギ科ヤドリギ属で半寄生する常緑低木です。枝に寄生している様子はこんもりと、丸くなった緑の玉です。ケヤキ、エノキ、コナラ、クリ、ミズナラ、ブナなどの落葉樹に寄生しますが、半寄生植物なので葉緑素をもち、葉も茎も 1 年中緑色で光合成を行なっています。春先に小さな黄緑色の花を咲かせ、実は 11~12 月に淡黄色に熟し、時に赤色の変種もあります。ねばねばした果肉に包まれた種子があります。ネバネバした実は小鳥に食べられると、種子は枝になすりつけられ発芽します。また糞がねばついて種子がくっつくという説もあります。

ヨーロッパではクリスマスに部屋の入口にヤドリギを掛け、この下を通る女性に接吻を許される風習があります。それはすべて幸福につながるといわれています。ヤドリギは日本だけでなく



ヤドリギ



ヒノキバヤドリギ

千年以上も昔から世界中の人から万病に効くとされ、常緑樹としてめでたいものです。また魔除けのおまじないとして、信仰や崇拜の対象となっていました。

ヤドリギは緑化センターにはありませんが、同じヤドリギ科のヒノキバヤドリギ(ソヨゴなど常緑樹に寄生)やマツグミ(マツに寄生)が見られます。搜してみましよう。

(注)APG 体系による分類ではヤドリギ、ヒノキバヤドリギはビャクダン科、マツグミはマツグミ科とされています。(上村)



マツグミ  
写真提供:川尻氏

## 小さな世界こけ

### コケの分類(その2)

タイ類は、ほとんどの種類は、土や樹木や岩などに着生しています。

①葉の形は、セン類のように茎と葉からできている**茎葉体**タイプ p と、茎と葉の区別がない**葉状体**タイプがあります。②胞子体は、蒴と蒴柄からなります。蒴は楕円形か円形で、胞子が成熟すると、

黒っぽくなった蒴は2裂、又は4裂し、孢子と共に弾糸を放出します。ゼニゴケ類の場合は傘状の雌器托をつけ、その下にぶら下がるように孢子体を作ります。③白く透明な蒴柄は弱く、数日で枯れてなくなります。ツノゴケ類は、茎と葉の区別がない葉状体で、ツノ状の蒴がない時期は、タイ類のゼニゴケの仲間と区別が付きにくいことがあります。つまようじのように伸びた蒴は、先からだんだん縦に割れ、孢子と弾糸を放出します。(山根)



クモノスゴケの孢子体



ゼニゴケの雌器托



ツノゴケの蒴

## 昆虫の話

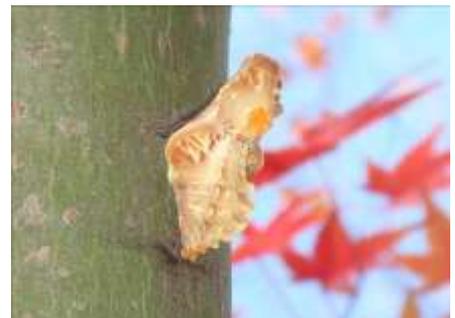
### お菊虫

日に日に寒くなり、ついにこんちゅう館周辺にも雪がふる季節がやってきました。多くの虫たちはひっそりと寒い季節が通りすぎるのを待っています。卵だったり、さなぎだったり、石の下にいたり、土の中にいたり・・・

そんな越冬中の虫たちの中に、ひときわ変わった形のさなぎで越冬するチョウがいます。このロココ調の装飾品のようなさなぎは、ジャコウアゲハのさなぎです。オレンジ色をし、ひらひらした突起があり、とてもアゲハチョウのさなぎには見えない姿をしています。この不思議な形を、後ろ手に縛られた女の人に見立て、播州皿屋敷という怪談に登場する「お菊さん」の怨霊が乗り移った虫として、「お菊虫」とも呼ばれています。

ジャコウアゲハは成虫も不気味な雰囲気をするアゲハチョウです。漆黒の翅をもつオスと、時がたち色あせたようなメス。どちらもその体は鮮血のような赤で、長い尾状突起をひらひらとさせながら、どこか頼りない、生気のない飛び方でツツジや彼岸花などの赤い花を訪れる姿を見かけます。その不気味さは彼らが毒チョウである事に起因するのでしょうか。幼虫が食べるウマノスズクサにはアリストロキア酸という毒が含まれ、鳥などが食べると吐き気を催します。彼らは成虫になってもその毒を体に持ち、天敵から身を守るのです。黒と赤という禍々しいカラーリングは毒の有無を知らせるための警戒色ということなのです。

ジャコウアゲハの一番の特徴はそのにおいです。体から名前の由来となった「ジャコウ」のようなおいが出るのです。獣臭く、あまりいいにおいではありません。ジャコウジカからとれる本物の「ジャコウ」は非常に高価で手が出ないので、似ているのかどうか分からないのが困るところです。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



特徴的なさなぎ



寒緋桜を吸蜜するオス

## 研修会のご案内

- |   |  |
|---|--|
| <p>○12月3日(日)『クリスマスリース作り』<br/>自然素材でリースを作ろう<br/>※要予約(キャンセル待ち)・材料費 500 円</p>     | <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：森林インストラクター<br/>長井 稔</p> |
| <p>○12月9日(土)『ひろしま遊学の森<br/>四季の移ろい写真コンテスト公開審査』<br/>審査と全応募作品の講評<br/>※自由参加・無料</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：二科会会員<br/>宗岡 泰昭</p>     |
| <p>○12月21日(木)『しめ縄作り』<br/>自作のしめ縄で新年を迎えよう<br/>※要予約(キャンセル待ち)・材料費 700 円</p>       | <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：小河内わら工芸会</p>            |
| <p>○12月24日(日)『ミニ門松作り』<br/>正月飾りを体験しよう<br/>※要予約(キャンセル待ち)・材料費 1,000 円</p>        | <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：三良坂竹工房指導員<br/>諫早 良雄</p> |
| <p>○1月6日(土)『春の七草 学んで試食』<br/>間違えると危険 七草によく似た植物<br/>※要予約(先着 30 名)・無料</p>        | <p>10:00～12:00 学習室 集合<br/>講師：緑花文化士<br/>横山 直江</p>     |

### ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・ふれあい湧 クラフト作品展  
～12月24日(日)

(ボード展示)

- ・ひろしま遊学の森「四季の移ろい」  
写真コンテスト展  
12月13日(水)～1月28日(日)

場所:学習展示館

- ・こども写生大会 作品展  
～1月31日(日)

### ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- 合格祈願「ヤマコウバシ」のお守り  
管理事務所にて、1人1枚、無料

### ～森林公園イベント情報～

- ・12月17日(日), 23日(土・祝)  
『クリスマスプレゼントを当てよう』  
抽選でクリスマスプレゼントが当たる(小学生以下)  
13:00～ 抽選券配布;管理センター受付  
14:00～ 抽選会;中央広場特設会場
- ・1月7日(日), 8日(月・祝)  
『新春イベント』  
9:00～小学生以下にお年玉プレゼント 管理センター受付  
10:00～14:00 年明けうどん先着 300食、200円/杯  
芝生広場休憩所



ふれあい湧 クラフト作品展より



第1回こども写生大会作品展より



「ヤマコウバシ」のお守り